

長野県飯田市における ラウンドアバウト社会実験について

勝岡 雅典¹・倉田 俊文¹・鋤柄 寛¹

¹非会員 飯田市役所建設部地域計画課（〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534）

E-mail: chiikikeikaku@city.iida.nagano.jp

1. はじめに

近年欧米諸国では、安全で効率的な交差点としてラウンドアバウトが積極的に導入されてきている。しかしながらわが国では、環状型交差点は数多く見受けられるものの、流入車両が優先のため環状部で停止線があったり、ほとんど交通量の少ない住宅地に存在したりしているような、必ずしも安全でかつ効率的であるとは言い難いものがほとんどであり、環道車両優先のラウンドアバウトは皆無である。

長野県飯田市にある吾妻町ロータリーも、1947年に起きた大火の復興事業のなかで、幹線道路を制御するための重要な交差点として整備されたものであるが、環道部が広くまた環道部内で車両同士が交差するケースが存在するような環状型交差点であり、安全性の担保を利用者同士のコミュニケーションや地域ルールに少なからず依存していることも否めない。一方でこのロータリーは飯田市のシンボルの一つである桜並木の中間部に位置しており、ここ数年来この桜並木の保護とともに桜並木の再整備の検討が進められてきている。

このような状況のもと、公益財団法人国際交通安全学会の協力を得て、飯田市では平成22年11月から12月にかけて吾妻ロータリーを改良して、ラウンドアバウト社会実験調査を行った。本研究は、この社会実験の概要について報告するとともに、社会実験にともなう地域住民との対話や関係機関との調整をはじめとする地元との連携について述べるものである。

2. 長野県飯田市について

長野県飯田市は、日本の中央、長野県の最南端に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえ、南北

に天竜川が貫く日本一の谷地形が広がり、豊かな自然と優れた景観、四季の変化に富み、動植物の南北限という気候風土に恵まれており、平成21年1月には「環境モデル都市」に認定された人口約10万人の地方都市である。また、りんご並木と人形劇のまちとしても知られており、天下の名勝といわれた天龍峡をはじめ、天竜川の川下り、元善光寺、しらびそ高原等の観光名所を有し、近年では、体験教育旅行や、銘桜を巡る桜守の旅、グリ-ンツ-リズム、エコツ-リズムといった取り組みなども全国から注目されている。

飯田市の中心市街地は飯田大火と呼ばれる1947年4月の火災により、市街地の大半を消失する被害を受けた過去があり、消失地の復興を機に道路、水路の再整備また、防火道路、貯水池、小公園を設け新たに防災都市としての土地区画整理事業が進められた。吾妻町ロータリーの位置する桜並木はこの整備事業の中で防火帯の機能を備えて設置されたものであり、桜の時期のみならず、りんご並木と一体性を成す並木となって、人の賑わいの中心的な役割を果たす飯田市のシンボルとなっている。

3. 吾妻町ラウンドアバウト社会実験について

(1) 社会実験の経緯と実施

市のシンボルともいべき桜並木は、整備されてから半世紀以上が経過し、車両通過による桜への影響が懸念されており、地元からは桜の保護を求められていた。

一方、市街地の外環道路となる都市計画道路や中心市街地からの放射道路の整備により、桜並木及び吾妻町ロータリー周辺の交通需要の変化が予測される状況である。

これらの状況から、飯田市では桜並木の再整備について検討を行ってきているが、図-1に示すように、その中間部に位置する吾妻町ロータリーは、中心市街地の幹線

道路を制御する重要な交差点であることもさることながら、図-2のようにその特殊な交差点形状にともなう検討課題が多いことから、再整備に向けての課題が山積しているところであった。



図-1 桜並木と吾妻町ロータリーの位置



図-2 吾妻町ロータリー

こうしたなか、公益財団法人国際交通安全学会の学会の研究プロジェクト「安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究（代表者：名古屋大学大学院中村英樹教授）」として周辺整備を考慮した交差点形状について社会実験の提案があり、飯田市としては、桜並木の再整備を検討していく上でのたたき台になると考え、協働で実験に取り組むこととなった。

社会実験に先だって現在のロータリーの問題点の整理を行ったが、問題点としてはおもに環道直径が大きく楕円形になっていることや環道が広く走行軌跡に乱れを生じていること、さらには北側流入部から南側流出部へ直線的な走行が可能な構造となっており走行速度が速い車両があることが挙げられた。こうしたことを鑑みて、本社会実験の改良の主なポイントとして、図-3に示すように道幅員を適正に狭めて完全な円形にすること、環道の導入部を一車線化して環道導入部をロータリー中心に誘導することとした。この結果交差点での速度の抑制と交通流を整えることが期待され、これを満たす最適な交差点形状としてラウンドアバウトを採用した。

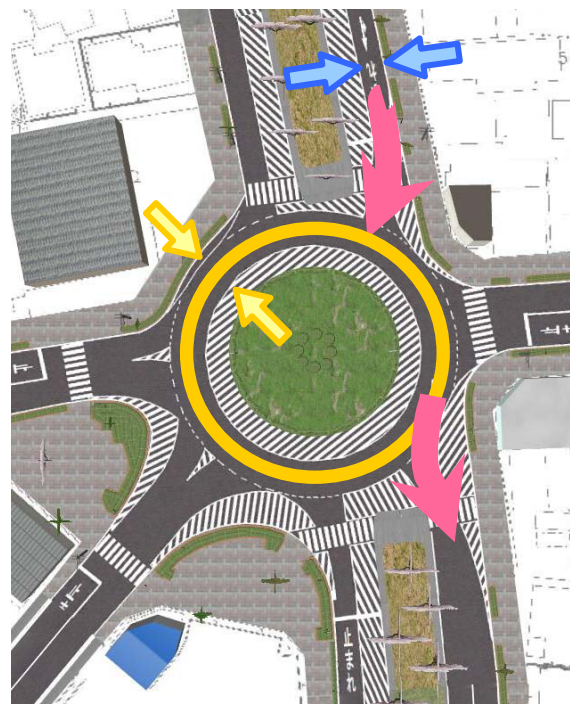


図-3 ラウンドアバウト実験計画

なお今回は社会実験であることから、道路構造の変更は行わず、路面標示やポストコーン、ブロック等の設置による改良を行った。

(2) 地域住民等とのかわり

ラウンドアバウト社会実験を進めるにあたって、長野県警や長野県をはじめとする関係各機関や地元企業・地域住民にご協力をいただくことにより、円滑に実験を進められることができた。まず実験前後を通して地域住民との意見交換会や説明会を度々実施したり、利用者意識アンケートを行うことや様々な媒体を利用した情報発信により、実験について情報共有することで、実験に対する理解と協力を得るとともに、利用者等としての視点から貴重な意見をいただくことができた。また地元の建設業協会による施工支援、さらには飯田ケーブルテレビによるラウンドアバウトのライブ映像配信といった地元企業等との連携を図った。

(3) 社会実験後の現況と今後

社会実験期間終了後、地域住民との意見交換会等での話し合いの結果、本実験に対して好意的な意見が多くみられた。そのため社会実験終了後も設置した誘導施設は引き続き設置するとともに、地域の方々からいただいた意見を参考にし、さらなる安全性の向上に努めるために関係各機関との調整を図りながら改善を進めていく予定である。また本実験期間中に県内外から注目されることにより、この交差点が飯田市の重要な地域資源であることを再認識したことから、今後は桜並木一体の整備に向けた検討やラウンドアバウト本格導入についての検討を市民とともに考えていきたい。